**2 幸田　文『木』**

　春、植木市がたつ。お寺のⓐケイダイへ、かなりな商品が運び込まれ、ちょっとした市なのである。父は私にガマ口を渡して、娘の好む木でも花でも買ってやれ、という。汗ばむような、晴れた午後だった。娘がほしいといいだしたのは、の植えだった。それは花物では、市のなかのだった。鉢ごとでちょうど私の身長と同じくらいの高さがあり、老木で、あすあさってには咲こうという、の房がどっさり付いていた。子供は、てんから問題にならない高級品を、無邪気にほしがったのである。子供だからこそ、めずせずねだるが、聞かずとも知れる高価である。とてもガマ口の小銭で買えるものではない。もちろん私は買う気などなくて、子供と藤のり合いなおかしさを笑ってすませ、①藤の代わりに赤い草花をどうかとすすめた。子供はそれらの花は、以前にもう買ったことがあるからとしりぞけ、小さいの木を取った。お職の藤から一度に大下落の山椒だった。ほしいものが買ってもらえなくて、わざと安値のものをとにすねたのではない。彼女は山椒の葉とらすぼしを、でいりつけたのをごはんにぱらぱらとまき、おに玉子焼きをつけたお弁当が、大好きだったからなのである。藤でなくても、山椒でも子どもは無邪気に喜んでいた。私もそれでよい、と思ってうたがわなかった。

　ところが夕方ⓑショサイからでてきた父が、みるみるになった。藤の選択はまちがっていない、という。市で一番の花を選んだとは、花を見るたしかな目をもっていたからのこと、なぜその確かな目に応じてやらなかったのか、藤は当然買ってやるべきものだったのに、という。そういわれてもまだ私は気がつかず、それでも藤は［　　　］だったから、と弁解すると父はⓒマガオになっておこった。好む草なり木なりを買ってやれ、といいつけたのは自分だ、だからわざと自分用のガマ口を渡してやった。子は藤を選んだ、だのになぜ買ってやらないのか、金が足りないのなら、ガマ口ごにうてばそれで済むものを、おまえは親のいいつけも、子のせっかくの選択も無にして、平気でいる。なんと浅はかな心か、しかも、藤が高いのバカ値のというが、いったい何を物差しにして、価値をきめているのか、多少値の張る買い物であったにせよ、その藤を子の心の養いにしてやろうと、なぜ思わないのか、その藤をきっかけに、どの花をもいとおしむことを教えてやれば、それはこの子一生の心のうるおい、女一代の目の楽しみにもなろう、もしまたもっと深い機縁があれば、子供は藤からへ、蔦からもみじへ、松へ杉へと関心の芽を伸ばさないとはかぎらない、そうなればそれはもう、その子が財産をもったも同じこと、これ以上の価値はない、子育ての最中にいる親が誰しも思うことは、どうしたら子のからだに、心に、いい養いをつけることができるか、とそればかり思うものだ、金銭を先にして、子の心の栄養を考えないⓓショチには、あきれてものもいえない──②さんざんにきめつけられた。

　藤の代わりに買い与えた山椒が、られたあとの感情をよけいせつなくした。一尺五寸ほどのⓔヒンジャクな木だが、鮮緑の葉はめば高い香気をはなち、めば鋭い味をひろげ、は容赦なく刺した。③誰のためにがなった木だろうと、思わされた。

語　注

お職＝同列の仲間のうちでに立つ人。転じて、主たるもの。最高のもの。

おめず臆せず＝少しも気おくれせず。

しらすぼし＝カタクチイワシなどのを生のまま、または蒸して、干した食品。

手金＝手付け金。

あがなう＝買い求める。

漢字　二重傍線部ⓐ〜ⓔのカタカナを漢字に直せ。

（２点×５）

ⓐ〔　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　〕　ⓒ〔　　　　　〕

ⓓ〔　　　　　〕　ⓔ〔　　　　　〕

問１　傍線部①で「赤い草花」を子供にすすめたのはなぜか、説明せよ。（５点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問２　空欄に入る適当な語句を本文中から三字で抜き出せ。（５点）

〔　　　　　〕

問３　父の言っていることの要点として適当なものを次から二つ選べ。（４点×２）

ア　花を大切にすべきである。

イ　親のいいつけを守るべきである。

ウ　子供のわがままを認めてはならない。

エ　子供の意志を大切にすべきである。

オ　金銭感覚を持たなければならない。

〔　　　〕〔　　　〕

問４　傍線部②における筆者の心情として最も適当なものを次から選べ。（６点）

ア　要領を得ない父の繰り言に、ほとほと嫌気がさしている。

イ　要点を突いて、次々とたたみかけてくる父の迫力にたじろいでいる。

ウ　説教に多くを語らない父の、簡潔で重いことばが身にこたえている。

エ　感情的に当たり散らす父の不機嫌さに、ものも言えないほどあきれている。

オ　女の気持ちがわからない強情な父に対し、悲しさがこみ上げている。

〔　　　〕

問５　次の文章は、傍線部③の表現にどのような意味が込められているかを説明したものである。その空欄Ⅰ～Ⅳに入る適当な語句をそれぞれ後から選べ。（４点×４）

　娘に【 Ⅰ 】を買ってやらずに【 Ⅱ 】を買い与えたことを父に叱られた。その後【 Ⅱ 】の木は、その叱られたせつなさを、父の思いとともに、私に思い起こさせるものとなった。【 Ⅲ 】に買い与えた【 Ⅱ 】の木であるのに、【 Ⅳ 】のために買った木になってしまった。

ア　父　　イ　娘　　ウ　私　　エ　藤　　オ　山椒

Ⅰ〔　　　〕　Ⅱ〔　　　〕　Ⅲ〔　　　〕　Ⅳ〔　　　〕

練習問題〈同訓異字〉

次の傍線部の平仮名を漢字に直せ。

①夏の夜空に花火があがる。　　（　　）

②二三日家をあけます。　　　　（　　）

③室内をあたためる。　　　　　（　　）

④スープをあたためる。　　　　（　　）

⑤手をあわせて拝む。　　　　　（　　）

⑥二つの会社をあわせる。　　　（　　）

⑦リズムに乗っておどる。　　　（　　）

⑧小おどりして喜ぶ。　　　　　（　　）

⑨手がたい商売をしている。　　（　　）

⑩彼は頭がかたすぎるね。　　　（　　）

⑪布を引きさく。　　　　　　　（　　）

⑫時間をさいて人に会う。　　　（　　）

⑬入部をすすめられた。　　　　（　　）

⑭候補者としてすすめる。　　　（　　）

⑮隊列をととのえて行進。　　　（　　）

⑯晴れ着をととのえる。　　　　（　　）

【解答】

漢字　ⓐ境内　ⓑ書斎　ⓒ真顔　ⓓ処置　ⓔ貧弱

問１　子供がほしがる藤は高価で子供に不釣り合いであるが、赤い草花は安価であるから。

問２　バカ値

問３　イ・エ

問４　イ

問５　Ⅰ＝エ　Ⅱ＝オ　Ⅲ＝イ　Ⅳ＝ウ

【練習問題解答】

1. 上（揚）（がる）　②空（ける）　③暖（める）　④温（める）

⑤合（わせる）　⑥併（せる）　⑦踊（る）　⑧躍（る）

⑨堅（い）　⑩固（い）　⑪裂（く）　⑫割（く）

⑬勧（める）　⑭薦（める）　⑮整（える）　⑯調（える）

【50字要約例】

高価な藤をねだる娘をなだめ山椒の木を買った私は、父から子供の心の栄養こそ大事にすべきだと叱られる。（49字）

▼補充問題▲

＊本文「私もそれでよい」に傍線を施し、

問　傍線部「私もそれでよい」とあるが、「私」はどうしたことをよいと思ったのか。三十五字以内で説明せよ。

答　最初に子供がねだった藤ではないが、子供も喜ぶ山椒の木を買ったこと。（33字）

＊本文「父はマガオ（真顔）になっておこった」に傍線を施し、

問　傍線部「父はマガオ（真顔）になっておこった」とあるが、父はなぜ怒ったのか。その理由として最も適当なものを次から選べ。

　ア　娘が、孫が母親に気を遣い我慢している思いをくんでやらなかったから。

　イ　娘が、目先だけの浅はかな考えにこだわったことが許せなかったから。

　ウ　娘が、自分の言いつけにそむいて、安値の山椒の木を買ったから。

　エ　娘が、金銭にこだわったために、孫の将来の可能性をつぶしたから。

　オ　娘が、孫の花を見る目の確かさを信じなかったから。

　答　イ